

# 岡山市埋蔵文化財発掘調査速報展2010

と き 平成22年11月2日(火)～5日(金)  
ところ 岡山市役所 1F 市民ホール

## 南方(後楽館)遺跡 岡山市北区南方

南方遺跡は、旭川西岸の平野部に位置する弥生時代中期を中心とする集落遺跡です。以前の発掘調査では、多くの遺構や遺物が出土しており、中部瀬戸内地域の中心的な集落であったと考えられています。

今回の調査地は、昨年調査した体育館棟建設区の北側で、集落の中心部により近い地点となります。調査の結果、古墳時代前期の水田跡、弥生時代前期、中期の土壇、溝等が見つかりました。とくに溝は集落中心部に向かって並んでおり、集落の中心部への道の痕跡と推測されます。

## 史跡岡山城跡 本丸下の段 岡山市北区丸の内

元禄13(1700)年に作成された『御城内(おんじょうない)御絵図(おんえず)』によると、今回の調査範囲からは長屋門跡や廁跡などが見つかったと予想されました。

調査の結果、『御城内御絵図』に記されている長屋門の基礎が当初の想定通り出土しました。長屋門は建物の中央に出入口にあたる「中の門」が作られ、地面には三和土による造成が確認できました。長屋門は増築などの大規模な改変が行われた痕跡がみられず、部分的な補修を受けながら、17世紀後半から幕末まで利用されていたと考えられます。

この長屋門確認のための調査区の外、試掘の調査区を2カ所設けました。調査の結果、長屋門が使用された時代の建物跡などは確認できなかったものの、さらに掘り下げていくと下層から17世紀前半頃に存在した建物の礎石跡を一部確認しました。元禄13年に作成された絵図よりも古い時期に存在した礎石跡は2008年度の調査でも確認しており、今回発見された礎石列とつながることが分かりました。これらの建物跡は記録が残っておらず、岡山城の変遷を知る上で重要な発見です。

## 岩倉遺跡 岡山市北区撫川

岩倉遺跡は、足守川下流域の西岸に位置します。弥生時代前期の集落遺跡として著名です。道路建設に伴う今回の調査は、集落の南端付近に位置し、弥生時代後期の遺構や遺物が出土しました。とくに、集落の端部をめぐる用水路と考えられる溝には、多量の土器が捨てられていました。完全な形の土器も含まれていることから、用水路の廃絶に伴うお祭りが行われたことを示していると考えられます。そのほかに、幼児を埋葬したと考えられる土器棺や掘立柱建物、土壇が見つかりました。また、古墳時代後期から奈良時代にかけての須恵器も出土しており、付近に同時期の集落が存在すると考えられます。

## 大供本町遺跡 第4次調査 岡山市北区大供本町

大供本町遺跡は、旭川下流の西岸に位置します。鹿田遺跡とともに、岡山県下でも最も有名な荘園である鹿田庄と関係の深い遺跡であると考えられています。区画整理事業に伴う1次～3次調査では、鹿田庄の成立した10世紀に、町割ができたことが確認されています。今回の調査では、15世紀から17世紀初頭頃の町割が見つかり、その中に、幅が5.3mもある堀をめぐる館も確認されました。それらが17世紀初頭になって急激に縮小することから、岡山城下町の成立、もしくは本格的な整備と関係があると考えられます。

## 中島遺跡 岡山市中区中島

中島遺跡は、岡山市中区中島付近に位置し、旭川によって運ばれた土砂により形成された高まり上に営まれた、鎌倉時代以降の集落遺跡です。

室町時代後半の戦国時代には、遺跡の位置する旭川東岸一帯には多くの城が築かれていました。江戸時代初めに著された「備前軍記」には、「中島の城主、中島大炊」と記されており、この遺跡付近にも城が築かれていたことが窺えます。平成15年の岡山県教育委員会による調査では、遺跡の西端部から約50m四方の規模を持つと思われる、堀を巡らせた室町時代の館跡が発見され、この城跡である可能性が指摘されています。

このたびの発掘調査では、室町時代後半～江戸時代初め頃の集落跡が見つかり、掘立柱建物跡や溝、大溝など多くの遺構が確認されました。中でも大溝は、幅が5mほどもあり、館の堀と同じ時期に埋没しているところから、館の外堀である可能性が考えられます。

## 西久保祇園1号墳 岡山市東区瀬戸

西久保祇園1号古墳は、駐車場工事中に偶然発見された古墳で、岡山市東区瀬戸内に所在します。岩尾山の南嶺一帯に所在する西久保古墳群に属する古墳時代後期の横穴式石室墳であり、祇園1号古墳以外に3基の古墳が発見されたことから西久保古墳群の支群・西久保祇園古墳群としました。

西久保祇園1号古墳は工事の破壊によって墳丘および石室の天井石は失われているものの、無袖の横穴式石室で谷側の南西方向に開口する径10数mの円墳であったと思われます。石室規模は、全長が約4.5m、玄室幅が奥壁側で約1.2m、羨道側で約1.4m、残存高は最大で1.5m前後を測る。付近で産出される流紋岩系の石材を使用し、奥壁は1石、側壁は0.8～1.2m大の大振りな石材を据えた後やや小振りな石材をその上に積んでいます。

奥壁側の床面付近を中心に、蓋坏や短頸壺、提瓶、平瓶などの須恵器や土師器甑、金銅製耳環4点、刀子や釘などの鉄器が出土しました。

## 湊茶臼山古墳 岡山市中区湊

湊茶臼山古墳は操山丘陵南部の山頂に立地する大型の前方後円墳です。これまでの調査で、古墳の大きさが墳長約120mであることや、造られた時期が4世紀末～5世紀初頭頃であること、墓石や列石などの施設がないことがわかってきました。

今回は前方部周辺を中心に調査しました。なかでも、前方部前部の調査区では墳丘の外に墓石のような施設が見つかりました。その北側は、はっきりした遺構や区画は見つかりませんが、方形の平坦な地形があります。墓石周辺からは埴輪片のほか小型の土器類が出土しており、このあたりで古墳に伴う祭祀が行われていたようです。

出土遺物には埴輪のほか、小型土器類、古式須恵器があります。埴輪は円筒埴輪と朝顔形埴輪がありますが、量は少なく、古墳の一番上の方に並べられたものが転落してきたものようです。

もっと知りたい!という方は・・・

”埋蔵文化財発掘調査報告会” に是非お越し下さい。速報展で展示した遺跡・遺物のことを発掘調査の担当者が詳しく説明します

●と き 平成22年11月13日(土) 13:30～

●ところ 岡山市埋蔵文化財センター (岡山市中区網浜834-1)

TEL (086) 270-5066